

JSSX-APDD 合同ワークショップ

-今後の医薬品開発促進への薬物動態学の貢献（第九回）:

基礎から臨床、セルフメディケーションまでを分子で繋ぐ-

ご挨拶

金沢大学薬学系 / JSSX 会長 / APDD

加藤 将夫

第9回 JSSX-APDD 合同ワークショップに、ご参加を賜りまして、誠にありがとうございます。第18期の JSSX 会長を務める加藤将夫と申します。本合同ワークショップの開催にあたりまして、一言、ご挨拶を述べさせていただきます。

本ワークショップは、JSSX 第15期の研究動向調査ワーキンググループの活動を端に、医薬品開発促進に向け薬物動態学研究者が如何に貢献できるかを討論する場として発足いたしました。JSSX は、イメージング質量分析法の非臨床薬物動態評価への導入に向けたガイドライン案の作成に関する活動を APDD にお願いした経緯があり、その成果が本学会誌 DMPK 第43巻（2022年4月号）に掲載されるとともに、2025年の掲載を目指して新たな提言作成の作業を進めておられると伺っています。先生方のこれまでの努力がまさに実を結びつつある段階にあります。

本日の合同ワークショップでは、モデレーターである佐々木晃先生（田辺三菱製薬株式会社/APDD）、中井大介先生（第一三共株式会社/APDD）による企画と総合討論が予定されています。薬物動態研究者が貢献すべきテーマに関して、活発なご討論をお願いできれば幸いです。



[略歴]

1990年東京大学薬学部卒。1993年東京大学薬学部助手。2001年 National Institute of Health（米国）Visiting Fellow。2002年金沢大学薬学部助教授。2008年より現職（金沢大学薬学系教授）。2022年4月より金沢大学薬学系長。2023年12月より日本薬物動態学会(JSSX)会長。